

カメラ機能の有無による初対面同士の オンラインコミュニケーションへの影響

1732112 長尾 由伸

指導教員：山崎治 准教授

1. はじめに

Web 会議システムの普及に伴い、オンラインによる就職選考場面など初対面でのオンラインコミュニケーションの機会が増えてきている。このような、Web 会議システムを利用した会話において心理的抵抗感が生じることがある。大石ら (2005) は、初対面の人と会話する時、通常のテレビ電話と白黒線面の TV 電話ではどちらがどの程度、相手の顔を見ることに恥ずかしさを感じるかという調査を行った。その結果、TV 電話では映像が鮮明すぎるためありのまま見られているという心理状態から緊張感や恥ずかしさが生まれると示した。このことは、参加者同士の関係性や、映像メディアの形式が心理的抵抗感に影響していることを意味している。

2. 目的

「初対面同士」の参加者グループによるオンラインコミュニケーションを想定し、「カメラ（顔映像）のオン/オフ」による対話・会話の質的变化と心理的抵抗感の違いを検討する。

3. 実験

地図課題の結果や課題実践時のコミュニケーション、課題実践後に行う主観評価（アンケート）から「カメラ（顔映像）のオン/オフ」による対話・会話の質的变化と心理的抵抗感の違いを検討する。

3.1 方法

実験参加者： 実験協力者として千葉工業大学情報科学部情報ネットワーク学科男性 1 名、参加者として実験協力者と初対面である千葉工業大学大学の学生 9 名に参加してもらった。

実験計画： 1 要因 3 水準参加者間計画で実施する。カメラ機能（顔映像）の有無を要因として、「オン/オン条件」、「オフ/オフ条件」、「オン/オフ条件」の 3 水準を設ける。

材料： 本実験においてグループワークの課題として用いる地図課題を作成した。主観評価（アンケート）は「シャイネスの測定」「オンラインコミュニケーションの経験」「グループワークに対する主観評価」「対話における心理的抵抗感」によって構成されている。なお、「シャイネスの測定」は桜井・桜井 (1991) が作成した Jones and Russell のシャイネス尺度の日本語版を用いて行う。

手続き： 実験は、実験説明、実験環境準備、課題実践 1、アンケート 1、フィードバック、課題実践 2、アンケート 2 の 6 つもしくは 7 つのフェーズから成る。実験環境準備では参加者及び協力者の PC の画面設定や Webex Teams の接続を行った。課題実践 1 では協力者に課題となる地図の経路を説明してもらい、参加者にはペイントツール上の地図に経路を描きこんでもらった。地図を描き終えたタイミングで声をかけてもらいフィードバックを行った。

次に、アンケート 1 では「対話における心理的抵抗感」について回答を行ってもらった。課題実践 1 で不正解の場合には再度課題実践に戻ってもらい、正解するか時間制限が来るまで課題に取り組んでももらった。アンケート 2 では残りの項目について回答を行ってもらった。

3.2 結果

対話における心理的抵抗感の各設問について各条件の平均値を図 1 に示す。

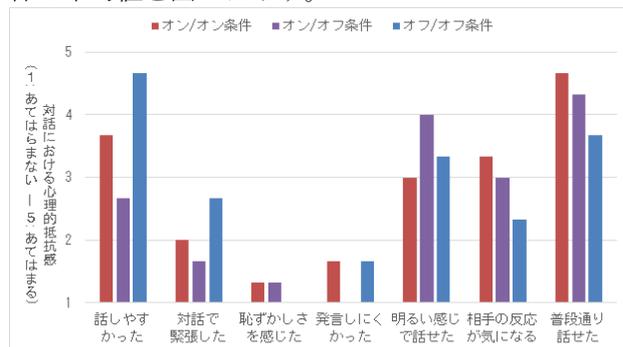


図 1 対話における心理的抵抗感に関する主観評価

対話における心理的抵抗感のそれぞれの項目において 1 要因分散分析を行った結果、すべての項目において有意差は確認されなかった。そこで、シャイネス得点が相対的に高かった参加者 A の回答結果を除外し、分析を行った結果、「与えられた対話状況は話しやすいかった」という項目で有意差を確認することができた ($F(2, 5)=9.60, p<.05$)。HSD 法による多重比較を行った結果、オン/オン条件とオフ/オフ条件と比較してオン/オフ条件の心理的抵抗感が高いことが明らかとなった ($MSe=0.37, p<.05$)。

4. まとめ

課題の達成度及び対話における心理的抵抗感の主観評価において有意差は見られなかった。しかし、対話における心理的抵抗感の主観評価において参加者 A を除いた分析では一部有意差が見られた。特に「与えられた対話状況は話しやすいかった」という項目において、オン/オン条件とオフ/オフ条件における心理的抵抗感と比較してオン/オフ条件の心理的抵抗感が高いことが明らかになった。全体で有意差が見られなかった原因として参加者の不足、水準間でのシャイネスの偏りが生じたことが考えられる。

参考文献

大石貴也, 徳永幸生, 米村俊一, & 大谷淳. (2005). 顔のエッジ表現を用いたコミュニケーションシステムの会話特性. 第 67 回全国大会講演論文集, 2005(1), 119-120.

桜井茂男, 桜井登世子, サクライ, シゲオ, & サクライ, トヨコ. (1991). 大学生用シャイネス (shyness) 尺度の日本語版の作成と妥当性の検討. 奈良教育大学紀要, 人文・社会科学, 40(1), 235-243.